

「夢とロマンの会」

撮影=豊崎 淳
photo by Toyosaki Jun
東京・内幸町の
「Seabornia MensClub」にて



今 から約二十年前、中東カ
タールで面積が岐阜県ほ
どもある巨大ガス田を開発し、
大規模な液化天然ガス（LNG）
プロジェクトを日本向けに
立ち上げようという構想が中部
電力のLNG事業に精通した鹿
野部長（当時）より持ち上がり
ました。砂漠の国カタールに
とって国の将来を担う最初のL
NG事業で、規模も世界最大級

のものでした。当時、部長クラ
スだったわれわれは、鹿野さん
のご支援を得て、まさに一丸と
なり、このプロジェクトに夢と
ロマンと情熱を持って打ち込み
ました。
当時、私は三井物産のエネル
ギー部門のLNG担当部長でし
た。商船三井の北條さんと、日
本郵船の白熊さんは、言ってみ
ればお互いLNG輸送では敵同
士の関係でしたが、カタールの
LNGプロジェクトでは、そう
したライバル同士も一緒に手を
組んだ一大プロジェクトだった
のです。



左から北條時尙・商船三井特別顧問、高橋正紀・アイビーダイワ社長、白熊邦章・三菱鉱石輸送相談役

白熊さんは昭和十五年
（一九四〇年）生まれ。三十七年
に日本郵船入社。その後、日本
郵船では副社長まで務めまし
た。

北條さんは昭和十七年（四二
年）生まれ。四十一年に商船三
井入社。副社長を経て副会長ま
で務めました。

高橋は昭和十六年生まれ。
三十九年三井物産入社。三井石
油開発副社長を経て、天然資源
開発、環境関連事業を手がける
アイビーダイワの社長として、
現役で頑張っています。

一九九七年から二十五年間に

及ぶ契約によって、中部電力を
中心とした日本の電力、ガス会
社へのエネルギー供給（初年度
六百万トン）。合計十隻に及ぶL
NG船建造、現地のプラント建
設など、全て日本企業が受注
し、このプロジェクトがもたら
した日本への経済波及効果は莫
大で、LNG船建造だけでもそ
の経済価値は2500億円を超
えました。貴重なエネルギー資
源を日本の海運会社によって全
て輸入されることになったこと
には大きな意義があります。

その後カタールは目を見張る
ような発展を遂げ、首都ドーハ

は近代都市に生まれ変わってい
ますが、そのきっかけとなった
のがこのプロジェクトです。
その後、三人は同じゴルフク
ラブの会員にもなり、夢とロマ
ンを語り合いながら腕を競う仲
です。

恐らく生きている間中、この
プロジェクトは続きます。こう
して、情熱を傾けた仕事が目
に見える形で残っていくのは、本
当に嬉しく思います。また、こ
のような世の中に貢献できる仕
事に素晴らしい仲間と共に携わ
ることができたことを誇りに思
います。
（高橋記）